



～ 旅行に関するアンケート調査 ～

荷造り・荷物の持ち運びと移動が旅行をする際の負担に クルーズが旅の煩わしさを払しょくする

世界的なクルーズ会社であるプリンセス・クルーズは、旅行に関するオンラインアンケート調査を、2013年12月19日～12月24日の期間、全国の30～69歳の男女800名を対象に行った。アンケートでは、旅行に出るときに大変だと思うこと、不安や不満などを聞いた。

大変だと思うこと、不安や不満についてわかったこと:

- 60%以上が「荷造りと荷物の持ち運び」を大変だと思っている
- 海外旅行の不便さナンバーワンは、「言葉」
- 国内旅行に関する不満はコストと移動時間

旅行についての希望や要望についてわかったこと:

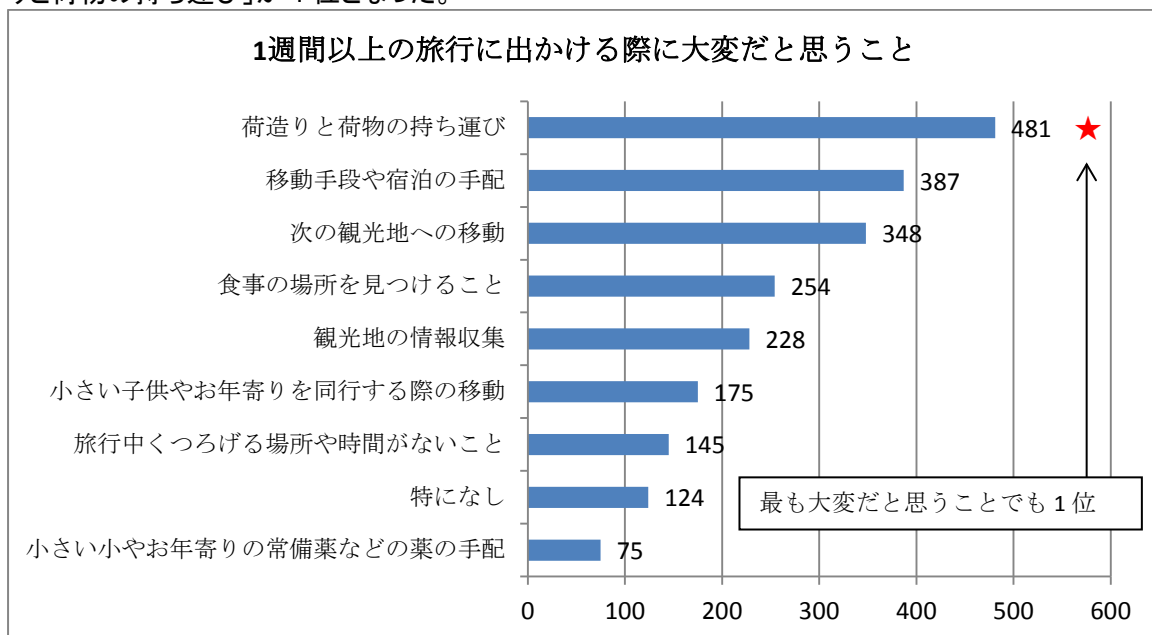
- 82%が一度の旅行で多くの場所を訪れることを望んでいる
- 21%が、家族旅行ではそれぞれの興味が異なることを指摘
- 53%がクルーズ旅行に興味あり

その結果、クルーズが、旅行に関する人々の不安・不満を解決できる可能性のあることが明らかになった。

<調査結果の概要>

■旅の煩わしさナンバーワンは、荷造りと荷物の持ち運び

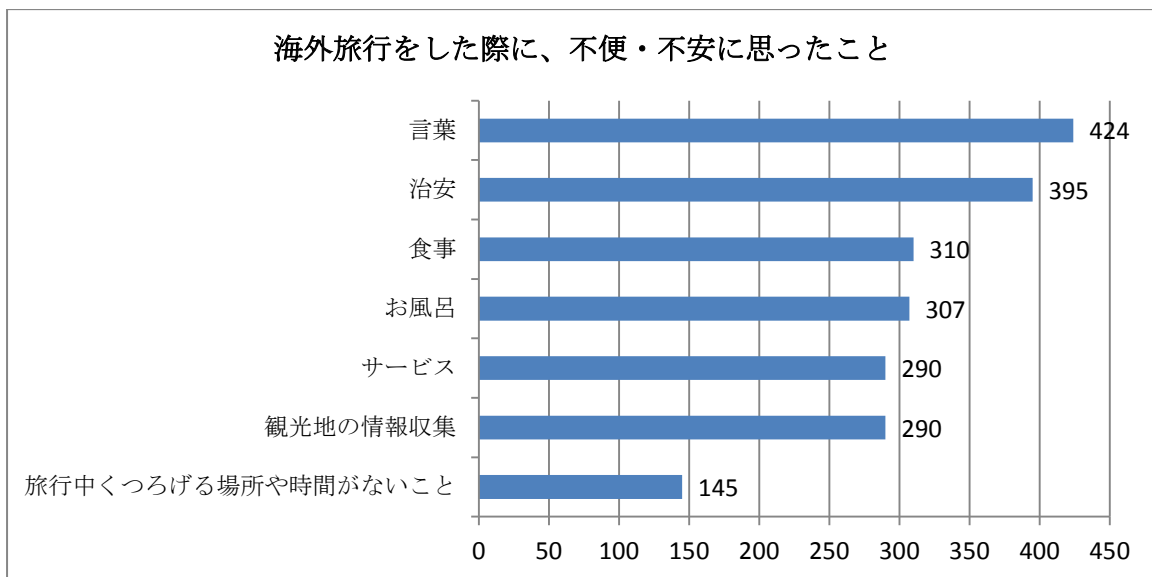
「1週間以上の旅に出る時、大変だと思う事」を複数回答で聞いたところ、最も回答数が多かったのは「荷造りと荷物の持ち運び」で、800人中481人、全体の60%以上、女性の70%が大変だと考えていることがわかった。続いて「移動手段や宿泊の手配」(同387人、48%)、「次の観光地への移動」(同348人、44%)が挙げられた。その中で「最も大変だと思うこと」を単一回答で聞いたところ、やはり「荷造りと荷物の持ち運び」が1位となった。



■海外旅行の不便さナンバーワンは、言葉

調査対象者の中で海外旅行経験のある 553 人に、「海外旅行をした際に不便・不安に思ったこと」を、聞いたところ、1 位は「言葉」で、424 人、77%が、「とても不便・不安に思う」「やや不便・不安に思う」と回答した。2 位は「治安」(同 395 人、71%)、3 位は「食事」(同 310 人、56%)であった。4 位は「お風呂」(同 307 人、56%)、5 位は「サービスと観光地の情報収集」(同 290 人、37%)という結果であった。

自由回答では、「言葉が通じず不安だった」「言葉が通じないので、不満があってもがまんしてしまう」と、言葉についての不安や不便が多く挙げられた。他には、「荷物が紛失した」「もしものときの医療水準が不安」「体調を崩し病院に行こうか迷った」「食事が口に合わない」「食事の選択肢が限られている」「移動時間や待ち時間が長くてもったいない」といった回答があった。



■一度の旅行で多くの場所を訪れることを望んでいるが、移動の手間が障害に

「せっかく旅行にいくなら、十分な日数をとり、できるだけ多くの場所を訪れたいと思うか」の質問に対し、82%が「はい」と回答。大多数の人が、一度の旅行で多くの場所を訪れたいと思っていることがわかった。一方で、「旅行で大変だと思うこと」の 1 位は「荷造りと荷物の持ち運び」、2 位は「移動手段や宿泊の手配」、3 位は「次の観光地への移動」であり、一度にたくさんの場所を訪れようとする移動が大変だという意識が浮かび上がる。

■国内旅行に関する不満はコストと移動時間

国内旅行をした際に、提示した項目について「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の 5 段階で聞いたところ、「移動の交通費が高い」という項目について、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答したのは 797 人中 522 人で、65%であった。「食事の料金が低い」については同 446 人で 55%、「宿泊の料金が低い」については同 441 人で 55%、「移動に時間が掛かる、待ち時間が長い」については同 431 人で 54%であった。

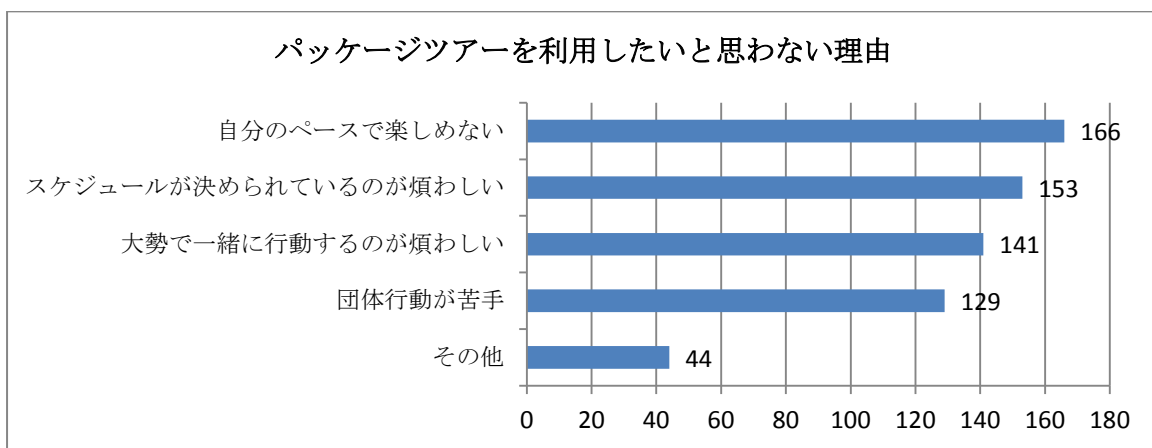
また、「今までに国内旅行をした際に、不満に思ったこと」を自由回答で挙げてもらったところ、「お金がかかる」「交通費が高い」「乗り換えが大変」「交通渋滞がひどい」「宿の料理がおいしくない」「食事がおいしい場所を見つけにくい」「宿のチェックアウトの時間が早過ぎる」「スケジュールの詰め込みすぎ」「長距離の車移動で子どもがぐずる」「ホテルの眺望が悪い」「ホテル内で遊べる場所がない」などの回答があった。

■家族旅行の悩みとして、それぞれの興味が異なることを上げた人が 21%

家族旅行に年 1 回以上行く人 528 人を対象に「家族旅行の悩み」を複数回答で聞いたところ、「家族の中で興味が異なるため行きたい場所が分かれる」という回答が 21%あったほか、やはり「移動が大変」(23%)「荷造りと荷物の持ち運びが大変」(23%)という回答が挙げられた。

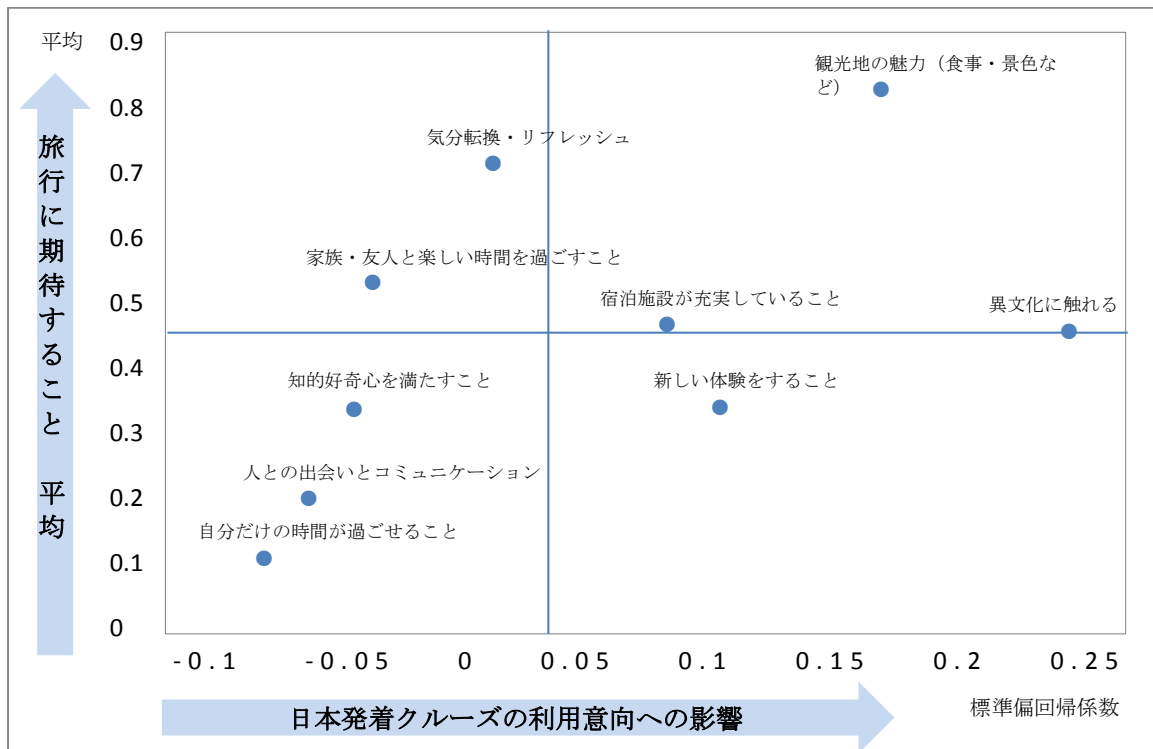
■パッケージツアーの利用意向は高いが、一方で不満も

パッケージツアーの今後の利用意向を聞いたところ、「はい」と回答したのは 67%であった。「いいえ」と回答したのは 33%で、その理由を聞いたところ、「自分のペースで楽しめない」(63%)、「スケジュールが決められているのが煩わしい」(58%)、「大勢で一緒に行動するのが煩わしい」(54%)、「団体行動が苦手」(49%)という回答が挙げられた。



■女性の 58%がクルーズ旅行に興味あり

「日本発着のクルーズ旅行に行ってみたいと思うか」尋ねたところ、800 人中 427 人、53%、女性では 400 人中 233 人、58%が「とても行ってみたい」「やや行ってみたい」と回答した。日本発着クルーズの利用意向が高い人ほど、「旅行に期待するもの」として、「観光地の魅力」「宿泊施設の充実」「新しい体験」「異文化に触れる」を挙げており、一般の「旅行で負担に感じること」として、「荷造りの荷物の持ち運び」「移動や宿泊の手配」「小さい子供やお年寄りを同行しての移動」を挙げている。



調査概要

調査協力会社: アイブリッジ株式会社
 調査方法: オンラインによるアンケート調査
 調査期間: 2013年12月19日～12月24日
 調査対象: 全国、30～69歳男女
 サンプル数: 800(内訳: 30代男女各100名、40代男女各100名、50代男女各100名、60代男女各100名)

**<日本におけるクルーズ旅行の可能性>
 観光ジャーナリスト、横浜商科大学講師、千葉千枝子氏**

この調査結果について、観光ジャーナリストで横浜商科大学講師の千葉千枝子氏はこう語る。

◆旅の煩わしさを払しょく

「クルーズは『快適で、かつ安心な旅』の代名詞といえる。

旅の煩わしさトップ3に挙がる「荷物」、「旅行手配」、「次の観光地への移動」のすべてを解消してくれるのがクルーズ。洋上滞在型の船旅は、手荷物を一度、船内に積み込んだら、船上はもちろん、陸上観光などの小旅行も最小限の手荷物で、身軽に快適に過ごせる。次の観光地(寄港地)までの移動に、旅特有の煩わしさはなく、優雅な旅を約束してくれる。

安全性も高い。貴重品は自室のセーフティボックスに置いて、持ち歩く必要がない。特に海外では、夜の治安が問題視されるが、船上でのナイトライフにそうした不安は一切ない。船内にいるのはセキュリティーチェックを受けた乗客だけなので、安心して楽しめる。

目的地は一カ所だけでなく、立ち寄る先々の寄港地でショアエクサカーション(寄港地観光)が充実しているのもクルーズの利点だ。クルーズが用意するショアエクサカーションに参加する場合、停泊する港に

はバスやガイドが待機しているから、すぐに観光を始めることができる。観光タクシーなどを利用して、フリーで観光するのもよい。

一度の旅行で、幾つもの場所を少ない手荷物で訪ねることができるのも、船旅の魅力といえる。特に北海道のような広大な地をめぐるにも、効率的だ。

クルーズは、『快適で、かつ安心な旅』の代名詞といえよう。」

◆クルーズは費用対効果が高く、どの年齢層にも楽しめるプログラムが豊富に揃う

「クルーズや豪華客船と言う言葉から、船旅にお高いイメージを持たれる方が多いが、欧米ではプレミアムやカジュアルクラスのクルーズが一般的。ドレスコードも緩やかで、かつ華やきがあるタイプのクルーズが人気を集める。それだけでなく、クルーズは三度の食事や移動費、エンターテイメントなどが全て込みの料金設定なのが特徴。小遣いを多めに見積もる必要がないため、旅の予算立てがしやすい。

アンケートの結果では、移動費や食事代、宿泊費、移動にかかる待ち時間などが、旅における煩わしさとされるが、クルーズはこれらの面倒を全て解消してくれるうえ、魅力ある観光地をめぐったり、船上でも飽きないようさまざまなエンターテイメントが用意されているので、費用対効果(コストメリット)が高い。

エンターテイメントのプログラムは、いかなる年齢層にも合致したものが用意されているのもクルーズの魅力。世代にあった楽しみ方を追求できるため、家族全員の希望をすべて実現するために頭をひねる必要はない。」

◆旅が好きな人、旅の達人にこそ注目してもらいたいクルーズ

「成熟社会の欧米では、鉄道やクルーズといった、ゆったりとした時間軸での旅が受け入れられている。また、クルーズは一部の富裕層だけの楽しみ方でなく、良い意味で一般大衆化がなされている。日本において船旅が、成熟したからこそ受け入れたい旅のあり方であると知ってほしい。

旅はルーティンな日々の営みではなく、非日常を求める消費行動でありライフスタイルである。重い荷物を背負ったり、日々の家事炊事が求められることがないクルーズでの旅は、人生の目標や憧れに近似値の、豊かで希少な体験を与えてくれる。

また、調査では、日本発着クルーズの利用意向が高い人ほど、「旅行に期待するもの」として、「観光地の魅力」「宿泊施設の充実」「新しい体験」「異文化に触れる」を挙げている。ぜひクルーズという新しい旅のカタチに果敢にチャレンジし、新しい体験してもらいたいと願っている。」

◆自分にあった旅のペースを実現できるクルーズ

「クルーズは、パッケージツアーのもつ安心安全な旅程保証と、個人旅行のもつ自由度を併せ持っている。今回の調査で明らかになった、人々が求める旅の在り方(上位から、観光地の魅力、気分転換・リフレッシュ、家族・友人と楽しい時間を過ごすこと、宿泊施設の充実、異文化に触れる、新しい体験をする、知的好奇心を満たすこと等)、すべてを包含するのがクルーズだ。

特に、人生経験が豊富で、旅にも目が肥えたシニアは、知的好奇心が旺盛であり貪欲で、「新たな見聞を広げたい」とする人が少なくない。クルーズなら、新しい体験や出会いが先々に待ち受けており、新たな視野、新しい世界が広がることは間違いない。

また船旅は乗船して、ベッドで眠っているだけで、さまざまな場所へと移動ができる。クルーズ旅行は、おもに夜間に航海し、朝、目覚めると新たな場所・新天地へと到達している航海スケジュールでつくられる。もちろん日中の航海であっても、時間をより有効的に過ごすことができる。充実した施設、さまざまなプログラム、トップデッキのプールやショッピングなど、さまざまな過ごし方が可能だ。自分のペースにあった旅を実現できるのも、船旅だからこそで、それが大いなる魅力だ。

プリンセス・クルーズの日本発着クルーズ就航によって、クルーズ旅行にさらなる利便性と可能性が増した。旅への本来の目的を見つめ直すと、おのずと旅のスタイルもみえてくるはず。アンケート調査で明らかになった、旅行に関する煩わしさ、不安や不満を解消することができるクルーズは、新しい旅行手段として、今後一層日本人に広まっていくものと期待している。」



千葉 千枝子(ちば・ちえこ)氏

観光ジャーナリスト・横浜商科大学講師

中央大学卒業後、富士銀行に入行。シティバンクを経て、JTBに入社。96年有限会社千葉千枝子事務所設立。運輸・観光全般に関する執筆、講演活動を行い、テレビ、ラジオにも多数出演。日本籍・外国籍船での洋上旅の経験も多い。日本観光研究学会、日本旅行業女性の会、日本旅行作家協会等に所属。沖縄県、神奈川県、釜石市など地方自治体の観光審議委員等も務める。著書に「観光ビジネスの新潮流」(学芸出版社)など多数。2014年度から中央大学経済学部 国際観光コースの客員講師に着任予定。

＜プリンセス・クルーズの2014年シーズン＞

プリンセス・クルーズは2014年、ダイヤモンド・プリンセスとサン・プリンセスの2隻体制で、合計42航海(チャーター含む)の日本発着クルーズを展開する。5日間から11日間の日程の10コースで、横浜、神戸、小樽の3港を母港として、日本20港と海外(韓国、台湾、ロシア)6港を訪れる。両船とも日本人向けに新施設を増設してより魅力的なサービスを提供し、10万人の乗船客を予想している。

株式会社カーニバル・ジャパン代表取締役、木島 榮子は以下のように話している。

「プリンセス・クルーズの日本発着クルーズは、調査で確認された旅行についての不便・不安を感じることなく、安心して楽しむことができる。インターナショナルな雰囲気でありながら、日本語スタッフが多数乗船しており、船内アナウンスや案内書、ダイニングのメニューなども日本語。医務室も日本語対応している。また、食事に関しても心配は不要だ。船内には、寿司やイタリアン、ピッツェリア、ステーキハウスなどさまざまなレストランや、日本食のサービスがあり、好みの食事を選択することができる。ダイヤモンド・プリンセスに新しく登場する日本式大浴場は、眼前に大海原の眺望を楽しみながら、慣れ親しんだ日本式のお風呂で疲れを癒すことができる。

調査では、国内旅行は料金が安いというイメージがあることがわかり、移動の手間や時間が不満な点として挙げられている。プリンセス・クルーズなら宿泊費、食事代、移動代、エンターテインメント代を全て含んだ1泊あたりの料金が1万円代からと、手の届きやすい料金設定となっている。また、クルーズは移動の手間や時間が掛からない点も特長のひとつだ。次の寄港地へは、夜寝ている間に船が移動するため、翌朝起きると新しい寄港地に到着している。クルーズなら移動に手間や時間をかけずに、たくさんの場所を無理なく訪れることが可能だ。

アンケート調査では、旅に期待することとして、『日常生活を離れて異空間を味わう事、日常を忘れられるような新鮮な体験、非日常』、『見たこともない景色に出会う事』、『普段の生活では体験できない刺激、その後の活力となるような出来事』という意見があった。プリンセス・クルーズの日本発着クルーズは、こ



PRINCESS CRUISES

これらの期待すべてに応えうる充実した内容となっている。ぜひ日本の皆様に、2014年シーズンにプリンセス・クルーズに乗船いただき、新しい体験をしていただきたい。」

以上

お問い合わせは 株式会社カーニバル・ジャパンまで TEL:03-3573-3610 <http://www.princesscruises.jp>